


令和 2 年 度

兵庫県公立高等学校学力検査問題

国 語

注 意

- 1 「開始」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 「開始」の合図で、1ページから10ページまで問題が印刷されていることを確かめなさい。
- 3 解答用紙の右上の欄に受検番号を書きなさい。
- 4 解答用紙の  の得点欄には、何も書いてはいけません。
- 5 答えは、全て解答用紙の指定された解答欄に書きなさい。
- 6 問題は五題で、10ページまであります。
- 7 「終了」の合図で、すぐ鉛筆を置きなさい。
- 8 解答用紙は、机の上に置いて、退室しなさい。

一〇〇高等学校新聞部では、ボランティア活動に関する全校生徒を対象としたアンケート調査の結果（下記の【アンケート結果】をもとに、卒業生にインタビューを行い、その内容を特集記事として学校新聞（あとの【新聞】）に掲載した。【アンケート結果】を参考にしながら【新聞】を読んで、次の問いに答えなさい。

問一 【新聞】の空欄①に入る適切な漢字一字を書きなさい。

問二 【新聞】の波線部ア～エを「事実」と「意見」とに分けたとき、「意見」に相当するものを一つ選んで、その符号を書きなさい。

問三 【新聞】の空欄②に入る適切なことばを十五字以内で書き、文を完成させなさい。

問四 インタビュー後、【アンケート結果】をもとに【新聞】に掲載する《資料》を作成した。この《資料》を作成したときの考え方の説明として適切なものを、次のア～エから全て選んで、その符号を書きなさい。

ア Aさんの発言の裏付けとして、ボランティア活動経験者の割合の年度ごとの推移を示すため、《資料》では、令和元年度と平成二十六年度の二つのグラフを用いることとした。

イ Aさんの話から、ボランティア活動への参加手続きの方法も情報の一つと見なし、《資料》のグラフでは「手続きの方法がわからない」という項目の数値を「十分な情報がない」という項目に含めることとした。

ウ インタビューでは、「一緒に参加する人がいない」と「特に妨げとなることはない」という二項目には触れなかったため、《資料》のグラフでは「その他」の項目にまとめることとした。

エ Aさんが触れた経済的負担の問題について、活動経験のある生徒に比べ、経験のない生徒の方が参加を妨げる要因とした割合が高いことを示すため、《資料》では「活動経験なし」のデータを用いることとした。

問五 新聞部では次回の特集に向けて編集会議を行った。その会議の要旨をまとめた次の文章の空欄に入る適切なことばを、【新聞】から十字以内で抜き出して書きなさい。

Aさんに話を聞いて、次回の特集記事で、あとの各項目に関する  ことが、生徒のボランティア活動への参加を妨げている多くの要因の解消につながると考えた。この考察を踏まえ、「ボランティア活動について考える 第二回」の記事を作成する。

- 高校生にとって参加しやすいボランティア活動
- ボランティア活動への具体的な参加手続き
- ボランティア活動に参加した生徒の活動内容
- ボランティア活動への参加にかかる費用

【アンケート結果】

高校入学後のボランティア活動経験の有無 参加の妨げとなる要因（令和元年度調査）

	活動経験の有無		参加の妨げとなる要因						
	活動経験あり	活動経験なし	参加する時間がない	経済的負担が大きい	十分な情報がない	手続きの方法がわからない	一緒に参加する人がいない	特に妨げとなることはない	
平成26年度	26.2%	73.8%	全体	42.5%	14.8%	13.7%	11.9%	9.6%	7.5%
平成27年度	24.3%	75.7%							
平成28年度	26.1%	73.9%							
平成29年度	29.7%	70.3%							
平成30年度	35.4%	64.6%							
令和元年度	38.5%	61.5%	活動経験あり	37.2%	14.2%	20.1%	13.7%	7.9%	6.9%
			活動経験なし	45.9%	15.1%	9.7%	10.8%	10.6%	7.9%

# 特集 ボランティア活動について考える 第一回

一九九五年一月十七日、阪神・淡路大震災が発生した。各地から駆けつけたボランティアが活躍し、この年は「ボランティア元年」と呼ばれている。あの震災から二十五年を経た本年。この節目の年に改めてボランティア活動について考えたい。今回は、全校生徒対象のアンケート調査の結果（『資料』参照）をもとに、本校の卒業生で精力的に災害ボランティア活動に取り組むAさんに話を聞いた。

——本校生の高校入学後のボランティア活動経験者の割合について、どのように考えますか。

数年前よりも活動経験者の割合が高まっているようで、うれしく思っています。最近、私も高校生と活動する機会が多くなっています。高校生にボランティアの輪が広がることは心強いことです。

——ボランティア活動の意義とは何でしょうか。

私は高校生のときに初めて災害ボランティア活動に参加しました。たとえ少しでも、人の役に立つことができたことにやりがいを感じました。被災地の人から「若い世代

わからないことも多いでしょう。興味はあるのに、参加方法がわからず、①の足を踏んでいる人もいるかも知れません。ですので、学校新聞等で多くの情報を提供する事は、とても大切だと思います。

——活動に関する情報はどのようにして集めたらよいのですか。

私は、インターネットを使って調べたり、ボランティア団体の方から直接聞いたりして情報を集めています。ボランティア活動の情報は、向こうから転がり込んでくるわけではないので、自分から知ろうとする姿勢が必要です。

——アンケート調査の結果によると、本校生のボランティア活動への参加を妨げている大きな要因は②。

まず、活動についてよく知ってもらうことです。ボランティアを受け入れる団体にとっても、広報がうまくできていないことが課題となっているようです。高校生では、参加手続きのことなど、よく

で、短時間でできる活動の情報を収集したりして参加しました。

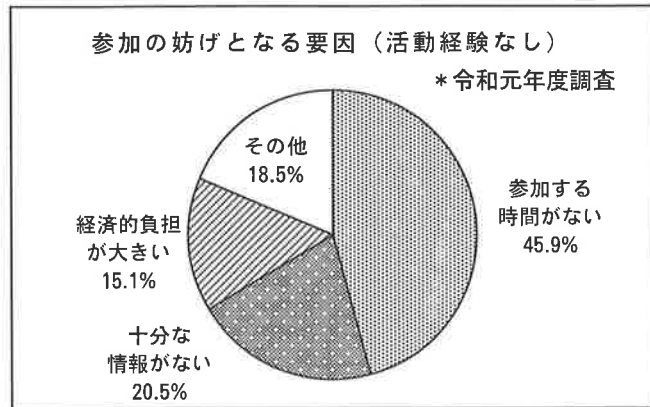
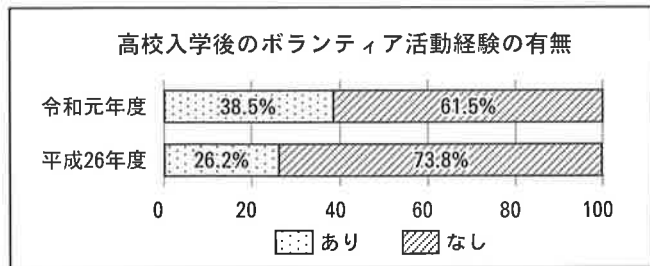
——ボランティア活動に参加する際の費用は負担にはなりませんでしたか。

確かに負担でした。そこで私はお金のかからない方法で自分で調べました。日帰りの活動に参加したり、自治体やNPO団体などが準備しているバスを利用して交通費を節約したりしました。

——ボランティア活動に関心がない後輩、参加を難しいと思っている後輩にメッセージをお願いします。

ボランティア活動を「特別な活動」だととらえている人が多いのではないのでしょうか。たとえ小さな力であっても、それを必要としている人に届けることができれば、それは立派なボランティア活動です。みなさんも、まずはボランティア活動について知り、自分にできることから一歩を踏み出してみてください。

## 《資料》



二 次の書き下し文と漢文を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔書き下し文〕

昔、陽明先生の居に群弟子侍る。一初來の学士、蓋し愚駭の

人なり。乍ち先生の良知を論ずるを聞くも、解せず。卒然と

して問を起こして曰はく、「良知は何物なりや。黒か、白

か。」と。群弟子啞然として失笑す。士は慙ぢて赧らめり。

先生徐るに語げて曰はく、「良知は黒に非ずして白に非ず、

其の色赤なり。」と。

〔漢文〕

昔、陽明先生居群弟子侍。一初

來、学士蓋愚駭人也。乍聞先生論

良知、不解。卒然起問曰、「良知何物。

黒耶、白耶。」群弟子啞然失笑。士慙

而赧。先生徐語曰、「良知非黒非白、

其色赤也。」

(来たばかりの学生) (たぶん) (愚かな)

(しばらく)

(は)

(あか)

(あら)

(おも)

(そ)

①

(クモ)

(ナリヤ)

(ス)

(ハ)

(チ)

(ス)

(ハ)

(クモ)

(耿定向) 『権子』

問一 書き下し文の読み方になるように、傍線部③に返り点をつけなさい。

問二 傍線部①の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 来たばかりの学生は、人の持つ知性について先生が説明しているのを聞いても、それがどういふものか全くわからなかった。

イ 先生の知性の素晴らしさについて、弟子たちがあれこれ言い合っているのを聞いても、来たばかりの学生は納得できなかった。

ウ 物事の是非を判断する先生の知性について、弟子たちが議論するのを聞いても、来たばかりの学生の疑問は解消しなかった。

エ 来たばかりの学生は、先生が人物について論じるのを聞いても、その人物の知性のほどが理解できなかった。

問三 傍線部②の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 小さな問題にとらわれて、本質を見ようとしていない愚かさをばかにして笑った。

イ 先生に対する、己の立場をわきまえない非礼な質問にあきれて笑うのをやめた。

ウ 自らの無知をさらけ出すような的外れな質問に、笑いをこらえられなかった。

エ ばかにされないように虚勢を張って平静をよそおう様子に、笑いをかみ殺した。

問四 傍線部④で陽明先生が伝えようとしたことを説明した次の文の空欄 a・b に入る適切なことばを書きなさい。ただし、a は三字のことば

を書き、b は書き下し文から抜き出したことばを書きなさい。  
自分の行いを自ら率直に **a** ことができるのは、**b** の表

れなのである。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

いにしへの家の風こそうれしけれかかるとの<sup>①</sup>はちりくと思へば

(後冷泉天皇「在位するとき」)

後冷泉院の御時に、十月ばかりに、月のおもしろかりけるに、女房達(天皇が女房たちをこれいせいめん)

(連れて)

(お出ましになって)

あまた具して、南殿に出でさせおはしまして、遊ばせ給ひけるに、かへで(月見の宴をなさったときに)

のもみぢを折らせ給ひて、女房の中に、伊勢大輔が孫のありけるに、投げ②

(おっしゃったところ)

つかはして、「この中には、おのれぞせむ」とておほせられければ、程も

(お聞きになって)

(歌の品格)

なく、申しける歌なり。これを聞こし召して、「歌がらはさるものにて、

疾きこそ、おそろしけれ」とぞ、おほせられける。されば、なほなほ、④

(いよいよ)

少々の節はおくれたりとも、疾く詠むべしとも覚ゆ。

(みなものとしより)源 俊頼「俊頼髓脳」

(注) 女房——宮中に仕える女官。

南殿——宮中で公式の儀式を行う所。

伊勢大輔——平安時代の女流歌人。

問一 二重傍線部を現代仮名遣いに改めて、全て平仮名で書きなさい。

問二 傍線部②・③の主語として適切なものを、次のア～オからそれぞれ

一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 後冷泉天皇      イ 伊勢大輔      ウ 伊勢大輔の孫

エ 他の女房      オ 筆者

問三 傍線部④の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選ん

で、その符号を書きなさい。

ア その場を離れると      イ そうはいつでも

ウ それを抜きにしても      エ そういわけて

問四 傍線部①の表現について説明した次の文の空欄 a・b に入る適切な

ことばを書きなさい。ただし、a は六字以上十字以内のことばを本文中から抜き出して書き、b は十字以上十五字以内のことばを本文中から抜き出して最初と最後の三字を書きなさい。

「かかることのは」という表現に、歌の作者は「は」と「ことのは」の二通りの意味を込めている。「は」は a にあたり、「ことのは」は b にあたる。

問五 本文の内容の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選

んで、その符号を書きなさい。

ア 伊勢大輔は、孫の取り柄は歌のうまさだけだと思っていたが、歌を詠む早さをも持ち合わせていると知り、末恐ろしく感じた。

イ 伊勢大輔の孫は、著名な歌人の孫らしくそれなりの歌を詠んだのだが、歌を詠む早さについては特にすぐれた能力を示した。

ウ 後冷泉天皇が女房たちの求めに応じて歌を詠んだところ、そのあまりの出来映えと詠み出す早さに、女房たちはみな舌を巻いた。

エ 筆者は、後冷泉天皇と女房たちの歌を通した風雅なやりとりに感銘を受けるとともに、当時の人たちの歌を詠む早さに驚いている。

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

明治の中頃、東京音楽学校に進学した瀧廉太郎は、楽器の専攻を決める時期にさしかかっていた。そのようなとき、欧米に留学し、バイオリンを学んで教授の肩書を得た幸田延が東京音楽学校に戻ってきた。

椅子から立ち上がった延は、預けていたバイオリンを受け取ると、廉太郎にピアノを勧めた。言葉に甘えて廉太郎がピアノの前に座り直し、鍵盤の上に指を伸ばすと、惚れ惚れとした口調で延は続けた。

「いい指をしている。長く力強い。可動域も広い」

「は、はあ」

「早く、弾いてみる」

促されるがままに廉太郎は指を滑らせた。やはり曲はショパンの『夜想曲』一番。掌がじっとりと濡れている。唾を呑んで緊張を追い払いながら、曲に合わせて十本の指を鍵盤の上で躍らせる。

冷や汗交じりに弾き終えたその時、延は、手を叩いた。

②「君はなかなか体を動かすのが上手い」

①何を言われているのか、よく分からなかった。顔を見上げると、延は薄く微笑んでいた。

「楽器は音楽への理解力で弾きこなすものという誤解があるが、一番必要とされるのは、的確に体を動かし、姿勢を保持し、滑らかに体重を移動させる身体操作に他ならない」

子供の頃から体を動かすことが好きだった。まさか、こんなところで活きてくるとは思わなかった。

「瀧君。君は楽器の専攻は決めたか」

「いえ、実はまだ……」

「教師として言っておく」延は鋭い声を発した。「バイオリンは避けたほうがいい」

「なぜ、ですか」

当然の問いだった。そもそも延自身がバイオリンを専攻している。その人の言とはとても思えなかった。

③延は一瞬だけ暗い顔を浮かべた。その時、教師としての仮面が剥がれ、年齢相応の女性の素顔が覗いた気がした。だが、延はすぐにその表情を追い出し、元の硬い表情を取り戻した。

「君の同世代に途轍もないバイオリニストがいるが、あの子に巻き込まれてしまつては、君の芽が潰されかねないと思つてな。だから、君には別の道を歩いてほしい」

教師の顔に戻った延は、ケースの中からバイオリンを取り出した。餛飩色の胴がツヤやかに光るバイオリンは、学校に置いてある練習用のそれとは比べ物にならない品格を備えている。しかし、延もそれに負けぬ凛とした立ち姿をしていた。肩にバイオリンを乗せ、延は続けた。

「今、日本の西洋音楽はよちよち歩きをしているところだ。あまりに人材が足りない上、国の理解も薄い。今、東京音楽学校が高等師範学校付きになつているのは知っているだろう」

大きく頷くと、延はなおも続ける。

「師範学校の付属扱いは、国の西洋音楽への冷淡ぶりを如実に示している。現状を打破するためには、有望な人材に活躍してもらうしかない。——瀧君。君は、音楽は好きか。人生のすべてを懸けることができるほど」

人生のすべて。延の口からその言葉が滑り落ちた時、部屋の中の空気が一段重くなった。その意味を考えれば考えるだけ、空恐ろしくなったからだ。相手は日本の西洋音楽界を牽引するあの幸田延だ。この人を前に、軽々に口にできることなどありはしない。

⑤喉から言葉が出ない廉太郎を見咎めるように、延は皮肉げに口角を上げた。

「突然のことだ。致し方あるまい。だが、もし、君が人生すべてを音楽に懸けられると考えるのなら——。わたしが個人的にレッスンをしよう。」

南千住の橋場にわたしの家がある。休日には家で過ごしているから、その時に腕を見てやる。わたしの家に楽器は一通り揃っている」

その代わり、教えるからにはみっちりやる。全身から気を立ち上らせながら、延はそう口にした。

「覚悟が決まったら来い」延はバイオリンの弓を弦に沿わせた。「ときに瀧君、一曲、重奏をしよう」

⑦ 面食らっていると、延は肩をすくめた。どうやら延は長い西洋留学の間に、向こう式の身振り手振りを覚えてきたらしい。

「おいおい、音楽家が重奏を渋ってはならんぞ。音楽の醍醐味は調和にあるのだからな」

それからは、延のバイオリンとの重奏を繰り返した。

延のバイオリンは融通無碍な鶴のようだった。ある曲ではぐいぐいと旋律を引っ張り、ある曲では廉太郎のたどたどしい旋律を優しく包み込み、またある曲では廉太郎の連打に挑みかかるようにバイオリンの音色が絡みついてきた。

「楽しかったよ、今日はありがとう」

延が去って一人になったピアノ室の中で、廉太郎は天井を見上げた。圧倒的なまでの実力差を見せつけられたというのに体中に心地いい疲労がのしかかっている。ふと鍵盤を見れば、廉太郎の汗で光っている。懐の手ぬぐいで鍵盤を拭いて、廉太郎は外を眺めた。気づけば、外の上野の景色は夕暮れに染まっていた。

(谷津矢車『廉太郎ノオト』)

(注) 高等師範学校——中等教育の教員養成を目的とした官立学校。  
融通無碍な鶴——自由でとらえどころのないさまのたとえ。

問一 傍線部①・④・⑤の漢字の読み方を平仮名で書きなさい。

問二 二重傍線部にある付属語の数を、数字で書きなさい。

問三 傍線部⑦の本文中の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 恥を忍んで  
イ 恐れおののいて  
ウ 我を忘れて  
エ 驚きとまどって

問四 傍線部②の理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 演奏に集中し、楽曲の世界に入り込んでいたため、現実世界の延の言葉が耳に入ってこなかったから。  
イ 延の言葉は、廉太郎がこれまでつちかっていた音楽や演奏に対するとらえ方に当てはめられないものだったから。

- ウ 体を動かすのが得意である廉太郎にとって、延の言葉はあまりに当たり前で、発言の真意が読めなかったから。  
エ 演奏前に延に指を褒められ、指の動きに気を配って演奏したのに、延の言葉の中にその点への言及がなかったから。

問五 傍線部③の延の様子の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 自らの発言に対する廉太郎の問いに答えようとして、「あの子」の存在がもたらす不安が表情に出てしまった。  
イ 廉太郎の生真面目な態度に接し、バイオリンへの道を諦めさせようとした己の軽率な考えを反省している。

- ウ 廉太郎の気持ちバイオリン専攻に傾かせてしまったことを感じ、「あの子」を話題にしたことを後悔している。  
エ わかり切ったことを問い返す廉太郎の音楽家としての理解力のなさに失望を覚え、それを顔色に表してしまった。

問六 傍線部⑥の延の様子の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 同世代のバイオリニストの実力に遠く及ばない廉太郎が、自分の厳しいレッスンに耐え抜くことができるのか危ぶんでいる。

イ 自分の存在に圧倒されて言葉の出ない廉太郎をふがいなく思いつつ、廉太郎の未熟さに配慮しなぐさめようとしている。

ウ 次代をになう素質を持つと期待するだけに、日本の西洋音楽界を背負う覚悟の定まっていない廉太郎をもどかしく思っている。

エ 音楽学校の学生にすぎない廉太郎に対し、音楽に人生を懸けることを求めた自分の性急さを抑制しようとしている。

問七

傍線部⑧の廉太郎の心情の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 延の演奏と自分の頼りない演奏との厳然とした差を見せつけられたことで、バイオリン専攻にもピアノ専攻にも見切りをつけ、新しい道を模索している。

イ 延との重奏で、自分の持てる力の全てを引きずり出されたことにより、かつてない充実感を覚えるとともに、その充実感をもたらし、た演奏の余韻に浸っている。

ウ 日本の西洋音楽界の第一人者である延と重奏することができたことで、自分の演奏技術への自信を深め、延と同じく音楽界の発展に尽くす自分の姿を思い描いている。

エ 圧倒的な実力差を感じながらも、延と重奏を繰り返す中で、楽器は音楽への理解力で弾きこなすものだという延の考えが理解できたような気がして、満足している。



五 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、本文には一部省略したところと表記を改めたところがある。

人間が思考するというのは、情報と知識を照らし合わせたり繋ぎ合わせたりして何らかの意味合いを紡ぎ出す行為であるが、そうした情報および知識という思考の材料は「言葉」になっていてこそ思考の材料たり得るのである。

したがって、論理的思考を良く行うためには、考える対象の意味内容を適切に言語化することが必要不可欠となるのである。

① 適切な言語化の第一歩は、思考の対象としようとする事象（モノやコトや様子）を正確に表す言葉を探し、選択することである。

たとえば眼前一面に咲いている黄色い花に対して、「菜の花」という言葉ではなく「花」という言葉を選択して認識してしまったとしても、それは目の前の黄色い花を表す言葉として間違っていない（「木の実」とか「ドーナツ」とかを選ぶと間違いである）が、「菜の花」という言葉と比べると正確性に劣る。「花」というだけでは、その植物が食べられるかどうかや、油を搾れるかどうかは分からないし、チョウチョが飛んでくるだろうことは想<sup>A</sup>キできたとしても、それがアゲハチョウなのかモンシロチョウなのかは分からない。

②、空に浮かぶうろこ雲を見て、「うろこ雲」という言葉で認識するのと単なる「雲」と認識するのでは、その言葉の持つ意味内容を他の情報や知識と繋げて得られる意味合いは大きく違ってくる。単なる「雲」という認識であれば、雨の可能性や曇り空、あるいはどんよりとしたイメージが広がっていくが、「うろこ雲」ならむしろ爽やかな秋晴れの空を思い出す。つまり、単なる「雲」という言葉から得られる意味合いは「雨が降る前<sup>B</sup>の空<sup>B</sup>」かもしれないが、「うろこ雲」からは「雨が降らない秋晴れの空」と、真逆の意味合いに繋がるのである。

このように、思考の対象となる事象の実相／実体を過不足なく言い表す

言葉を探し出し、選び取ることこそ、正しい思考のための適切な言語化の第一歩なのである。

こう説明すると、正確な言葉探しはそれほど難しいスキルではないように感じるかもしれないが、意外に厄介な側面もある。自然言語は、多義性を持つからである。

たとえば、「ネコは人懐っこい動物である。」という表現は、人間の膝の上に乗ってきて甘えるネコや、ゴロゴロと喉を鳴らしてすり寄ってくるネコのイメージを想<sup>A</sup>キさせて、多くの人が共感・共有できる意味内容である。

しかしその一方で、「ネコは人に懐かない動物である。」という表現も、多くの人が共感をもって納得できると思われる。街でネコを見かけてもサッサと逃げて行くし、飼い猫ですら名前を呼んでも近寄って来なくて当然という面もある。つまり、「ネコは人懐っこい動物であり、人に懐かない動物である」という命題表現が成立することになり、これを数学的に表すと「A<sup>正</sup>∥BかつA<sup>正</sup>⊥Bである」ということになってしまう。「ネコは人懐っこい動物であり、人に懐かない動物である」という表現は詩的には理解できるものの、論理的思考を行いな<sup>正</sup>がら論理を展開していく上で混乱や誤謬<sup>正</sup>をきたす原因となる。

このような混乱や誤謬は、「言葉の多義性」によるものである。ネコという誰でもよく知っている対象ですら、「懐く／懐かない」、「ライオンと比べると」小さい／（文鳥と比べると）大きい」等々、多様な意味内容やイメージを持っている。したがって、ネコを対象にした論理展開を進めていく際に、様々な意味内容の断片が全然別の方向に繋がって行って、収<sup>C</sup>シユウのつかない論理展開になってしまう可能性があるのである。

④ ④ とはいえ、自然言語の言葉の多義性は思考を行う上で極めて重要な性質である。思考とは、対象の持つ意味内容の要素と、知識として保有している事象の持つ意味内容の共通部分とで意味的なジョイントがなされて、論理および推論を展開していく作業である。つまり、ある一つの思考対象が

持つ意味内容を一つだけに限定しないからこそ様々な知識と繋がり得るのであり、言葉の多義性があるからこそ、豊かで広がりを持った論理展開が可能になるのだ。

もし先に挙げたような言葉の多義性から生じる論理矛盾を避けようとすると、A⇔BとかC⇔Dというように命題の意味内容を一義的に限定する数学的思考しか成立しなくなる。このような思考世界では、論理展開によって真か偽かの命題展開、数式展開は可能であっても、ネコやご飯や思いつきといった現実世界の重要な事象や概念を論理的思考の材料とすることができなくなってしまふ。<sup>⑤</sup>論理的に精緻な思考を追求すると、それは正確かもしれないが、厚みも豊かさも実感もリアリティも伴わないものになってしまうのである。

ではどうすれば、豊かな広がりを持ちリアリティのある、⑦ 論理的妥当性の高い思考を行うことができるのかというと、ある思考対象の言葉と照らし合わせて繋げる知識要素のジョイントの部分とそれ以外の部分の意味内容を注意深く把握しながら論理を展開していくことに尽きる。ネコが文鳥と比べて大きな動物だとは言っても、「大きい」という意味内容で戦艦大和と繋げて、「ネコは戦艦大和に似ている。」などという論理展開に陥らないようにすることである。

同様に、秋の爽やかなお天気を表す時、「空一面に広がった『雲』」という表現ではなく、「空一面に広がった『うろこ雲』」という表現を選び取れるようにすることである。結局、豊かでかつ論理的に妥当性の高い思考を実現するためには、意味的に過不足の無い言葉の選択が全ての基本になる。そして、言葉とその言葉が持つ意味合いに関する知識・経験とセンスによって、<sup>⑧</sup>注意深く意味を繋いでいくことが求められるのである。

(波頭亮 はとうりょう 『論理的思考のコアスキル』)

(注) 命題——判断の内容を言語で表したものの。

A⇔B——「AとBは等しくない」ということを表す。

誤謬——あやまり。まちがい。

問一 二重傍線部A、Cの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群のA、

工からそれぞれ一つ選んで、その符号を書きなさい。

A ア 交通をキ制する。 イ キ存の権利。

ウ キ転結のある話。 エ 部屋を換キする。

B ア チョウ越した能力。 イ 貴チョウな意見。

ウ 協定のチョウ印式。 エ 噴火の予チョウ。

C ア 医師を招シユウする。 イ シユウ学旅行に行く。

ウ シユウ得物を届ける。 エ シユウ名披露公演。

問二 空欄⑥には四字熟語が入る。解答欄に合うように漢字二字を書き、その語を完成させなさい。

問三 空欄②・⑦に入ることばの組み合わせとして適切なものを、次のA

、工から一つ選んで、その符号を書きなさい。

A ②しかし ⑦したがって イ ②さらに ⑦すなわち

ウ ②つまり ⑦それでいて エ ②また ⑦しかも

問四 傍線部①の具体的な説明として最も適切なものを、次のA、工から一つ選んで、その符号を書きなさい。

A 目の前で咲いている菜の花を見て、「花」、「黄色い花」といった言葉を思い浮かべること。

イ 目の前で咲いている菜の花を見て、「菜の花」という言葉でそれを認識すること。

ウ 目の前で咲いている菜の花を見て、「この菜の花は食用だ。」と思うこと。

エ 目の前で咲いている菜の花を見て、「この菜の花をおひたしにしたらおいしいだろう。」と考えること。

問五 傍線部③の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 正確な言葉を探して選び取ったとしても、論理的思考の展開に支障をきたすことがある点。

イ 正確な言語化を行っても、命題表現として成立させた時点で言葉に多義性が生じてしまう点。

ウ 多くの人が好ましく思っているものごとであっても、それに悪いイメージを抱く人もいる点。

エ 正確性に劣る言葉を選び取ってしまったとしても、必ずしも間違いとはいえないという点。

問六 傍線部④の理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア ささまざまな知識や情報を互いに照らし合わせることで、数学的思考が可能となり、論理的思考を容易に進めることができるから。

イ 思考の対象と知識双方の意味内容の間に多様な結びつきの可能性が生まれ、豊かな意味合いを紡ぎ出していくことができるから。

ウ 言葉を対象として思考を進める際に、多くの人が共感・共有できる意味内容をイメージすることができ、正しい思考ができるから。

エ 論理的思考を展開する際の混乱や誤謬が事前に想定しやすくなるため、初歩的な誤りを避けた上で自由に考えることができるから。

問七 傍線部⑤について説明した次の文中の空欄 a・b に入る適切なことばを書きなさい。ただし、a は十四字のことばを本文中から抜き出して最初と最後の三字を書き、b は四字のことばを本文中から抜き出して書きなさい。

\_\_\_\_\_ a \_\_\_\_\_ して論理を展開することにより、思考の過程から \_\_\_\_\_ b \_\_\_\_\_ を  
厳密に排除しようとする。

問八 傍線部⑧とはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア それぞれの言葉の意味内容について、共通部分だけでなくそれ以外の部分をも十分に吟味した上で、言葉を接続させていくこと。

イ 考えるための材料として、意味を複数持たない言葉を厳選した上で、言葉と言葉を知識や経験を生かして結びつけること。

ウ 現実世界の事象が持つ意味内容と、自分の知識や経験が持つ意味内容のジョイント部分に注目して、使う言葉を選んでいくこと。

エ 論理や推論を展開していくために用いる数式が、現実世界の正しい反映となっているのかどうかを、一つずつ丁寧に確認すること。

問九 本文の展開の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア まず論理的思考のあるべき姿を定義し、ついで言葉探しと論理の展開の違いについて考察して、最後に現実的な事象を対象とした論理的思考の望ましいあり方について述べている。

イ まず論理的思考についての二つの対立した見解を提示し、ついで両者を比較することでそれぞれの特徴を明らかにして、最後に両者の長所を組み合わせた理想的な思考について述べている。

ウ まず言葉の正確性に関する一般的な見方を批判し、ついで論理的思考の観点から言葉の多義性の問題点を示して、最後に日常生活を営む上での論理的思考の可能性について述べている。

エ まず論理的思考成立のための条件を挙げ、ついで言葉の多義性をもたらす思考の混乱と純粹な論理的思考の問題点を指摘して、最後に思考を正しく展開させる方法について述べている。